

# 「食」の総合拠点づくりについて

平成27年6月30日  
国土交通省北海道局

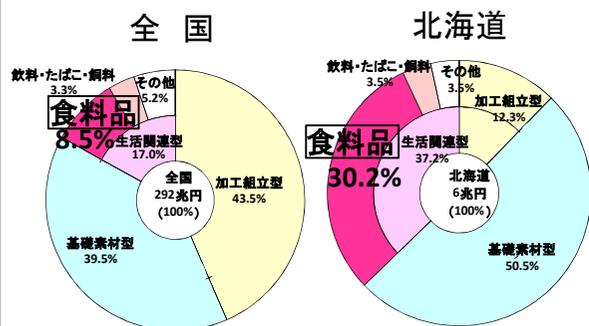
# 高付加価値化を図る「食」の総合拠点づくり

第2回計画部会資料から抜粋

- 北海道は、農林水産物の生産拠点である強みを持ちながら、道内での食品産業における付加価値率が低い現状。
- 1次産業と食品産業が連携し、高付加価値化による道内への価値還元が地域経済・雇用にとって重要。

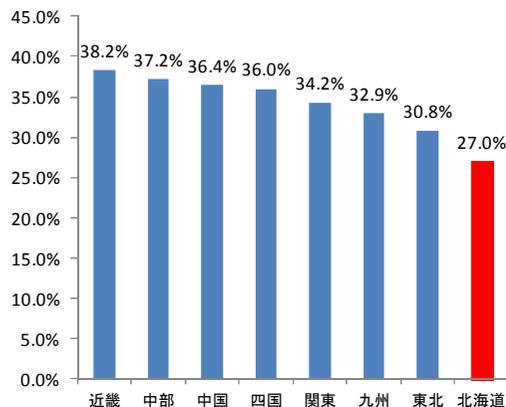
## 現状と課題

製造品出荷額に占める  
食料品の割合が高い



資料：経済産業省「平成25年工業統計調査」

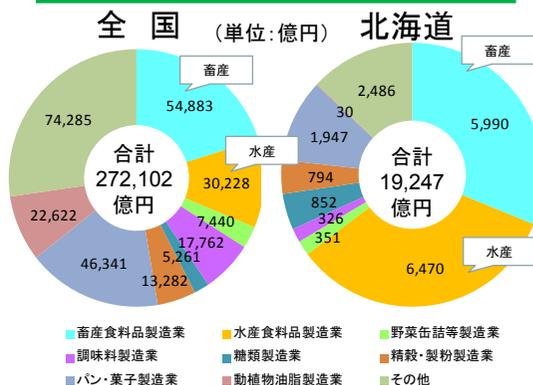
食料品製造業は付加価値が低い



資料：経済産業省「平成25年工業統計調査」  
注) 食料品製造業の付加価値率

付加価値率 = 付加価値額 / 製造品出荷額等

食料品製造は水産・畜産が中心



資料：経済産業省「平成25年工業統計調査」  
注) 食料品製造業の製造品出荷額等

食料品製造業の事業所数は減少、  
製造品出荷額等は同程度で推移



資料：経済産業省「平成25年工業統計調査」

## 施策の方向性

- 6次産業化の推進等による競争力の強化  
(1)ファンド等の支援を活用した6次産業化事業の拡大  
(2)農商工連携の促進
- 農業界と産業界の連携による道外からの企業立地の促進
- 特区制度の活用、食クラスター活動等の加速化
- 生産・流通システムの高度化  
(1)ロボット化、ICTクラウドの活用等
- サプライチェーン強化及び輸出促進のための物流インフラの整備  
(1)道産食品の輸出拡大のため小口混載輸送サービス(HOP)の取組

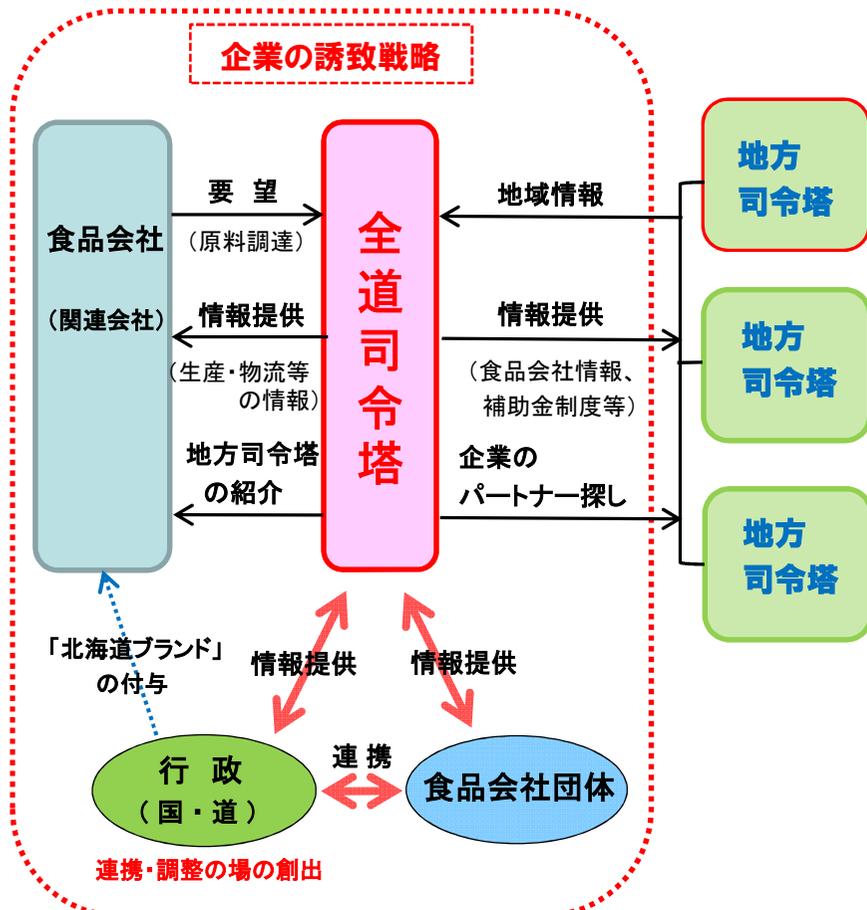
# 高付加価値化を図る「食」の総合拠点づくり

第2回計画部会資料から抜粋

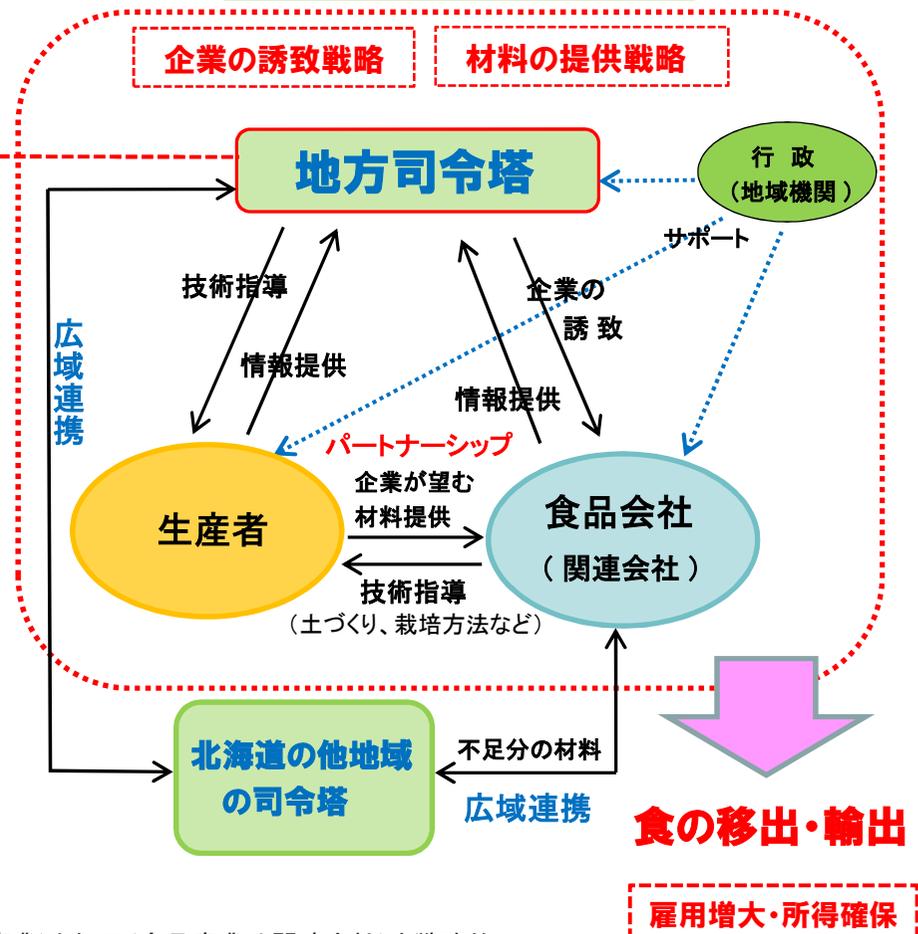
- 北海道の「食」の高付加価値化を図るため、生産と加工を戦略的に結ぶ「司令塔」のもと、原材料生産を担う1次産業と加工を担う食品産業が連携した新たな産業間の関係構築を全道に展開する。

## 「食」の総合拠点づくり(展開イメージ)

### 全道レベルの連携イメージ



### 地方レベルの連携イメージ



※「司令塔」は、新たに設ける農産連携のシステムをリードし、生産(道内の1次産業)と加工(食品産業や関連会社)を戦略的に結ぶことで食品工場等の北海道への立地を促進する。北海道の1次産業を主体とする組織や経済界等での構成を想定。

# 「食」の総合拠点づくり（地方レベルの連携事例①）

- カルビーポテト(株)は、「JA帯広かわにし」のじゃがいも生産農家との契約栽培を通じ、高品質で大量の加工用じゃがいもの安定供給を実現。また、加工工場を原料主産地である帯広市内JAの集出荷施設に隣接して建設し操業するとともに、本社を東京都から当地へ移転。
- 現在、より高品質な原料生産、商品づくりのため、栽培技術の向上等を生産農家と連携し進めている。



北海道ブランドで全国へ・海外へ 地域雇用の創出・所得の確保 農業生産の安定化・担い手の確保 地域の活性化 など

※【参考】じゃがいもの都道府県別生産量(H25) 全国 約200万トン (1位) 北海道 約167万トン (2位) 長崎県 約9万トン (3位) 鹿児島県 約8万トン (聞き取り等により北海道局で作成)

# 「食」の総合拠点づくり（地方レベルの連携事例②）

○（株）山口油屋福太郎（本社：福岡市）は、せんべいを製造するための高品質なじゃがいもでん粉の安定確保を求め、2013年に北海道小清水町で原料を確保し、同町内に新たに製造工場を進出した上で、せんべいの製造を開始。

## 山口油屋福太郎

- 福岡市で国産でん粉を使ったせんべいを製造
- 2010年に国産でん粉用じゃがいもの不作等で原料確保が困難に
- 原料確保に奔走していたところ、小清水町の産地情報を得、JAと交渉開始



廃校を活用したせんべい製造工場



情報交換・交渉

## 原料生産・加工（小清水町内）

- でん粉用じゃがいもの主産地
- 町内のでん粉工場加工し出荷

原料生産・でん粉加工体制の確保等

## JAこしみず

- 生産情報の提供
- じゃがいもでん粉の安定供給

## 小清水町

- 工場誘致、生活環境等の情報
- 廃校活用等の情報提供



小清水町のじゃがいも生産

## 製造工場の進出

- 地場の原料を使ったせんべいの製造・販売  
（小清水のでん粉、紋別のホタテ、羅臼・函館のイカ、北見のタマネギ、ビート糖 など）
- 北海道・オホーツク地域ブランドによる付加価値化
- 廃校を活用した製造工場の建設、観光拠点としての活用（工場見学・ギャラリー）
- 約40名の雇用を創出

## 〈連携のポイント〉

- 原料産地の情報が得られた
- JAや町が関与し、信頼関係の構築につながった
- 品質の高い原料の長期的、安定的な供給体制の確立

北海道ブランドで全国へ・海外へ 地域雇用の創出・所得の確保 廃校等地域資源の利活用 地域の活性化 など

# 「食」の総合拠点づくり（全道レベルの連携の推進）

- 北海道が農産物等の供給基地である強みを活かし、食品の原料生産を担う1次産業と、加工を担う全国的な食品産業とが工場を進出し連携することで、北海道を中心とした新たなバリューチェーンの構築を図る（＝「食」の総合拠点づくり）。これを全道的に展開していくことで、地域の雇用・所得の創出、輸出の促進を図る。
- このため、「食」の総合拠点づくりを進めるための枠組みづくりや、生産・加工連携を進める上での課題の分析、推進方策等について検討を行う「食」の総合拠点づくり検討会（仮）を開催する。

## 「食」の総合拠点づくり検討会（仮） （全道レベルの取組）

### 〈検討内容（案）〉

- 「食」の総合拠点づくりを進める枠組みの検討
- 生産・加工連携を進める上での課題の分析、推進方策等の検討
- 生産・加工連携のために必要な情報の整理
- 農業生産基盤、輸送インフラ等の効果的活用等の検討 など

### ○ 関係組織・団体等の参画（案）

（リーダー的役割）



### ○ 専門家の意見の反映

### ○ 各分野での取組、事業・制度等の活用

### 情報の活用、調査・分析

#### 食品会社情報

- 原料ニーズ（品目・品種・量・品質、コスト、調達時期等）
- 工場進出ニーズ有無と条件 など

#### 生産地域・生産者情報

- 産地の気候・土壌・生産技術
- 生產品種・量・品質・出荷時期
- 生産体制・営農の継続性 など

#### 農業基盤、輸送インフラ情報

- 農業生産の農地・用水等基盤
- 道路網、空港、港湾施設、航路等
- 輸送インフラの整備計画 など

#### 行政情報

- 広域情報
- 事業制度・補助制度など